

せたがやの文化財

No. 22



桜木遺跡出土の縄文土器

新しく登録・指定された文化財



鈴木家住宅穀倉



東玉川神社社殿



善養院本堂
並びに庫裏



桜木遺跡出土の
縄文時代遺物
一括



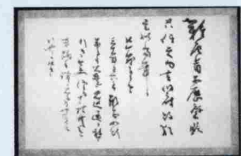
喜多見中通遺跡
出土馬具



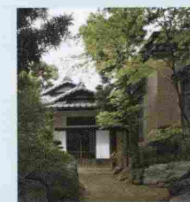
旧多摩郡
大蔵村
井山家文書



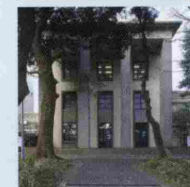
石井家文書



宇津木家文書



K家住宅



日本学園1号館

こくぐら
区指定有形文化財 鈴木家住宅穀倉

指定年月日 平成21年11月16日

種 別 有形文化財（建造物）

所 在 地 等々力2-39（内部は非公開）

鈴木家は江戸時代から続く農家でした。屋敷は谷沢川（等々力溪谷）の脇に構えられ、敷地の北寄りに主屋を配置して、前庭を囲むように土蔵2棟と穀倉が建っています。

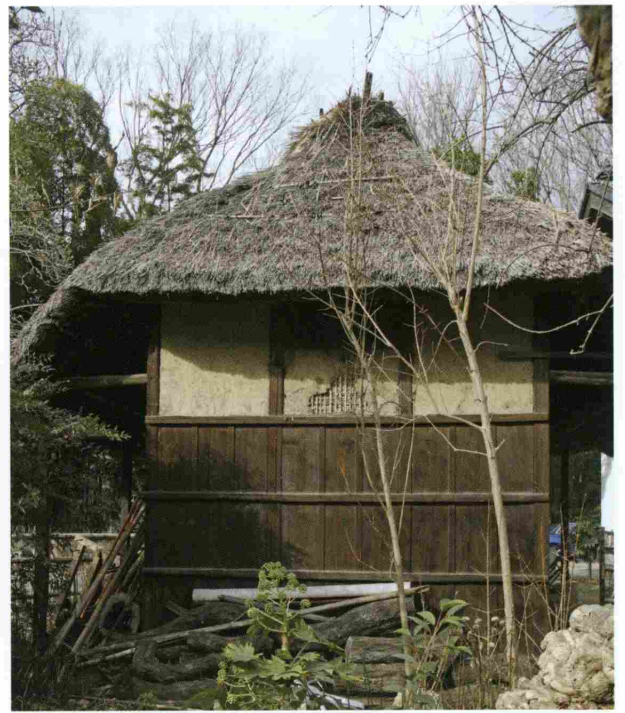
穀倉は、明治8年（1875）に建てられた2間×1.5間の小規模な茅葺きの建物です。外壁には板を打ち付け、建物の三方に下屋を設けて屋根を深く葺き下ろし、風雨から建物を守っています。

内部は床・天井・壁ともに板張りになって、ネズミや害虫の侵入を防ぐ工夫がされています。入口には錠前が付き、厳重な戸締りがされていました。天井裏には梁がなく物置として利用されていたようです。

かつては多くの農家に穀倉がありましたが、時代とともに取り壊され、現在区内で確認できるものは他にありません。



正面入口



区登録有形文化財 東玉川神社社殿

登録年月日 平成21年3月31日

種 別 有形文化財（建造物）

所 在 地 東玉川1-32-9（内部は非公開）

東玉川神社は、江戸時代にあった諏訪神社が明治時代に一時廃社となったものを、昭和3年に再興したものです。現在の社殿は昭和14年から翌年にかけて渋谷区にある氷川神社から譲り受け移築したもので、この時に東玉川神社に改称しています。

社殿は拝殿・幣殿・本殿からなり、幣殿と本殿の間に獅子之間と呼ぶ板張りの床を設けています。拝殿の向拝天井には、弘化2年（1845）の年記がある龍の墨絵が描かれています。

他地域から移築された建築ですが、戦前に移築された伝統的な木造の社殿であり、地域の歴史を伝える建築として貴重な建造物となっています。



区登録有形文化財 善養院本堂並びに庫裏^{くり}

登録年月日 平成 21 年 3 月 31 日

種 別 有形文化財（建造物）

所 在 地 新町 2－5－12（内部は非公開）

善養院は曹洞宗のお寺で豪徳寺の末寺です。本堂は昭和 8 年 10 月に設計が完了し、昭和 10 年 6 月に竣工しました。その 2 年後の昭和 12 年に庫裏が竣工しています。本堂の形式は、曹洞宗寺院の方丈形本堂の典型例である整形六間取りを基本としています。

庫裏は本堂と渡り廊下で繋がっています。庫裏の南側は増改築が行なわれ、新旧材の区別が付き難くなっていますが、玄関、続き間、本堂への渡り廊下部分に旧材が使用されていることが認められます。

善養院の本堂並びに庫裏は、新興住宅地に残る数少ない戦前の寺院建築です。

庫裏→



本堂↓



野毛古墳まつり（平成 21 年 10 月 17・18 日）

野毛大塚古墳（野毛 1－25）は今から 1,600 年も前に多摩川周辺を治めた王のお墓です。

この古墳を皆さんに紹介し、大切に保存していくために、町会ならびに昭和女子大学のご協力を得て「第 2 回 野毛古墳まつり」を開催しました。

- ★ 野毛大塚古墳解説（写真右上）
- ★ 野毛古墳群散策
- ★ ミニ土器づくり（写真右下）
- ★ 古墳クッキーづくり（写真下）
- ★ 古代食を味わう
- ★ 町会屋台コーナー
- ★ 野毛大塚古墳出土品展示



区指定有形文化財

桜木遺跡出土の縄文時代遺物一括

指定年月日 平成 21 年 12 月 10 日

種 別 有形文化財（考古資料）

所 在 地 宇奈根 1－8－21

世田谷区宇奈根考古資料室

桜木遺跡は桜 1 丁目にある縄文時代を中心とした集落跡で、その範囲は東西約 400m、南北約 220m で、面積は約 80,000 m²と推定されています。

指定された出土品は、今から 5,300 ～ 4,500 年ほど前のもので、372 軒の住居跡やお墓などから出土したもので、縄文土器 127 点、土製品 506 点、石器 4,978 点と石製品 17 点からなっています。

これらの出土品は、関東地方における縄文時代中期文化・社会の典型的な例として、広場を中心にドーナツ状に広がる縄文時代中期の「環状集落」とよばれる村の景観や当時の人々の暮らしを知る上で重要な資料です。



磨製石斧



石鏃（矢じり）



ヒスイ製の
ペンダント



さまざまな石器



打製石斧



磨石



石皿



縄文時代集落の発掘の様子

（桜 1 丁目・桜木遺跡）



耳 栓 (じせん)



縄文土器 (一部)



器台形 (きだいがた) 土器



白い構造物は解体された現代の建物の基礎部分です。

区指定有形文化財 喜多見中通遺跡出土馬具

指定年月日 平成 21 年 11 月 16 日

種 別 有形文化財（考古資料）

所 在 地 宇奈根 1-8-21 世田谷区宇奈根考古資料室

「轡」は乗馬の際に馬の口にかませて使われるもので、鉄でつくられています。現在は錆びついて曲がっていますが、本来は可動式で、復元すると長さは 20.5 cm になります。連結環は太さ 0.6 ~ 0.7 cm、銜先環は径 4.5 × 3.9 cm とやや大ぶりで、銜先環と一体になった軸部は振られています。

この形式の轡は、朝鮮半島南部の伽耶地域に出現し、古墳時代中期の 5 世紀初頭には畿内をはじめとする西日本に現れて 5 世紀中頃には東日本に広がり、5 世紀末には消滅するとされ、全国で 20 例ほどが確認されていますが、その殆どが小規模な古墳からの出土です。

本例は喜多見 7 丁目にある喜多見中通遺跡の 21 号住居跡の壁際から出土したもので、5 世紀中頃の製品で、古墳出土例を含めても関東地方最古とされます。この轡は多摩川流域における古墳時代中期を特徴づける資料として、また同時代の朝鮮半島との交流を示す点で重要です。



文化財保護強調週間 2009 「舞いも、祭りも文化財！」

文化財に親しみ、身近に感じていただくため、下記の催しを行いました。

■写真展 心にのこる年中行事

(平成 21 年 10 月 21 日～11 月 19 日、
12 月 7 日～18 日)

喜多見氷川神社の節分行事、ボロ市など都・区指定の無形民俗文化財を写真で紹介しました。

■「妙壽寺客殿」見学と烏山寺町散策

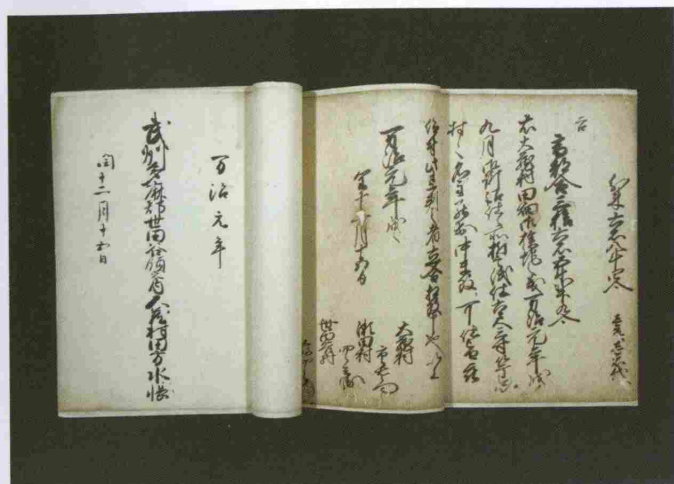
(平成 21 年 11 月 27・28 日)

区指定有形文化財（建造物）妙壽寺客殿内部を稲葉和也氏（建築史家）の解説で見学した後、寺町通りを散策しました。

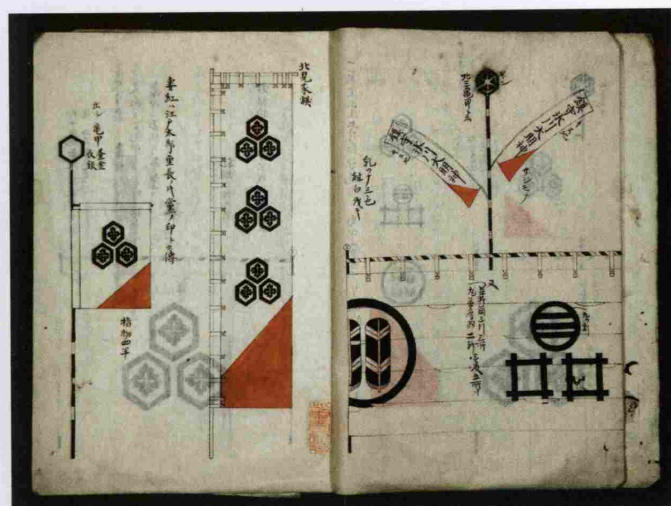


■第 4 回 遺跡調査・研究発表会 (平成 21 年 12 月 5 日)

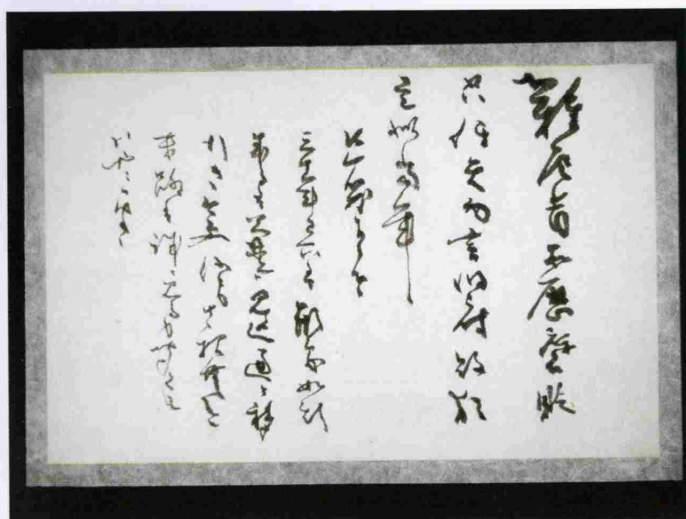
「祖師谷大道北遺跡第 13 次調査」「上野毛稲荷塚古墳第 2 次調査」について区学芸員が報告し、谷川章雄氏（早稲田大学人間科学部教授）に「考古学から見た江戸と世田谷」をテーマに講演していただきました。



万治元年「武州多摩郡世田谷領之内大蔵村田方水帳」(左)



石井至穀著『都多返久佐』



岡本黄石宛 勝海舟書簡

区指定有形文化財

きゅうたまごおりおおくらむらいやま けもんじょ
旧多摩郡大蔵村井山家文書

指定年月日 平成 21 年 12 月 10 日

種 別 有形文化財 (古文書)

点 数 1,463 点

所 在 地 世田谷 1 - 29 - 18 区立郷土資料館

井山家は、旧大蔵村の旧家で、明治 13 年 (1880) に井山徳次郎が大蔵・鎌田連合村の戸長となりました。

井山家文書には、元名主安藤家などから引き継いだ公的な資料を含め、江戸から明治期に作成された旧大蔵村の基礎資料が数多くあります。最も古いものは万治元年 (1658) に作成された検地帳です。これらの史料は、旧大蔵村の概要を知る上で貴重な文献です。

区指定有形文化財

いししい けもんじょ
石井家文書

指定年月日 平成 21 年 12 月 10 日

種 別 有形文化財 (古文書)

点 数 195 点

所 在 地 世田谷 1 - 29 - 18 区立郷土資料館

石井家文書は、そのほとんどが旧大蔵村出身の文人・石井至穀の著作で占められています。

至穀は、安永 7 年 (1778)、大蔵村の名主を勤める家に生まれました。江戸で学んだのち大蔵村に帰り家督を継ぎますが、これを弟に譲って御家人株を買い、幕臣となります。幕府の編さんする『古今要覧』編集にたずさわり、主任・屋代弘賢から考証学を学びました。自らも数多くの歴史書を著し、74 歳で書物奉行となりました。これらは世田谷の郷土史を知る上でも、極めて重要な史料です。

区登録有形文化財

うつつぎ けもんじょ
宇津木家文書

登録年月日 平成 21 年 11 月 16 日

種 別 登録有形文化財 (古文書)

点 数 約 1,500 点

所 在 地 世田谷 1 - 29 - 18 区立郷土資料館

宇津木家は井伊直政の重臣で、享保 5 年 (1720) には治部右衛門が彦根藩家老となって以降、代々その職を勤めた家柄です。万延元年 (1860) の桜田門外の変の事後処理にあたった家老岡本黄石も、宇津木家の出身です。

同家文書には、近世初期の史料をはじめ、維新後に漢詩人として活躍する岡本黄石の書幅、詩稿、彼と交流のあった勝海舟、中村正直ほか多くの文人墨客の書簡、画幅などが含まれています。

国登録有形文化財 K家住宅

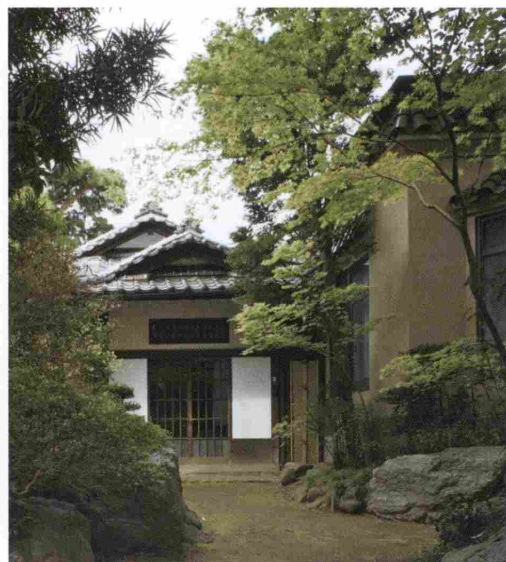
登録年月日 平成21年11月19日

種 別 有形文化財（建造物）

所 在 地 梅丘1丁目（非公開）

K家住宅の主屋は昭和7年に建てられた、木造平屋建ての住宅です。玄関の脇に応接間として洋館が設けられた洋館付和風住宅と呼ばれる形式の郊外住宅です。

屋敷の門と塀は主屋と同時期に造られたものですが、年月を経ても古びない丁寧な仕事がされています。庭には多くの樹木が植栽され、屋敷全体が緑豊かな歴史的景観を形成しており、地域の重要な建造物になっています。



撮影：清水 襄



撮影：清水 襄

国登録有形文化財 日本学園1号館

登録年月日 平成21年11月19日

種 別 有形文化財（建造物）

所 在 地 松原2-7（内部は非公開）

日本学園の前身は東京英語学校で、明治18年（1885）に神田錦町に創立されました。その後、場所を転々とし、昭和11年に松原に移りました。

日本学園1号館は昭和11年に竣工しました。設計は卒業生の一人で、当時早稲田大学助教授であった今井兼次が担当しました。鉄筋コンクリート3階建ての片廊下型の校舎で、3層分の高さをもつ4本の柱が並ぶ正面玄関は風格をもち、意匠の特徴となっています。

せたがや文化創造塾

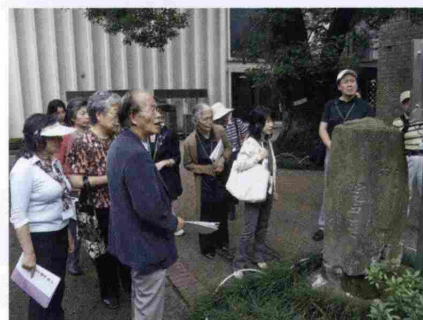
「秋の講座」を平成21年9月9日（水）～13日（日）に実施しました。延べ518名の参加があり、盛況のうちに終了しました。この他、ボランティア養成講座や和古書本調査なども行いました。

＜講座紹介＞

講 座 名	講 師（敬称略）
江戸っ子とは	吉原健一郎（成城大学名誉教授）
六玉川と万葉歌碑	星山晋也（美術史家）
将軍の御成と世田谷	山崎久登（成城大学民俗学研究所研究員）
「茶碗」を考える	竹内順一（永青文庫館長）
世田谷と江戸	森 安彦（国文学研究資料館名誉教授）
鎌倉時代の仏画	内田啓一（昭和女子大学教授）
蘆花と子規の 文学を支えた庭	服部 勉（東京農業大学准教授）



講座風景「将軍の御成と世田谷」



ボランティア養成講座

編集・発行 世田谷区教育委員会事務局 生涯学習・地域・学校連携課 文化財係
〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27
☎ 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039
<http://www.city.setagaya.tokyo.jp>
平成22（2010）年2月26日 発行